

EA998P - 7 安全帯(ショックアブソーバー付)

この安全帯は労働安全衛生法第42条の規定にもとづく「安全帯の規格」により製造したA種・B種安全帯で1本つり専用です。

ベルトサイズ・・・50x1200x2.0(t)mm
平ロープサイズ・・・約18X1500mm(フック部分含む)

重量・・・1010g

レバー操作なしでロープを自動巻取り方式です。

1. 使用する場所

足場がある高所で使用します。フックは親綱又は構造物に掛け平ロープ1本で体とつなぎ体重をかけずに使用する。1本つり専用で墜落した時に災害を防止する為に使います。



2. 構造と各部の名前

A種・B種安全帯は労働省産業安全研究所「安全帯技術指針」で規定されたものです。

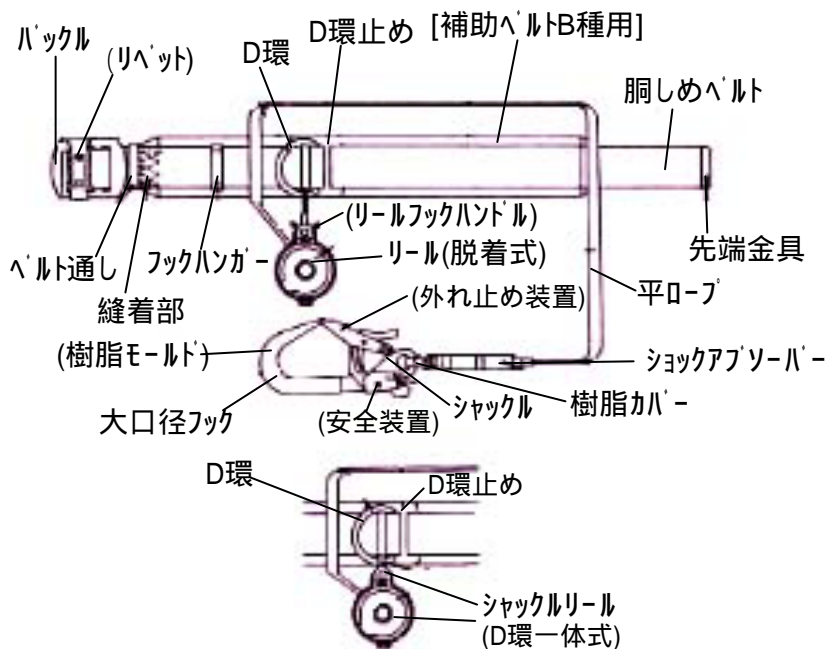
A種安全帯

胸しめベルトにバックルを付け平ロープと強固に連結して平ロープ先端にフックをつけたものです。

B種安全帯

A種安全帯に補助ベルトを付けたものです。

A種安全帯 (形状は一例を示しています)

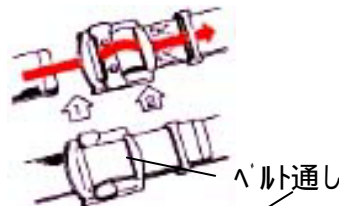


3. 安全帯を体に装着する時

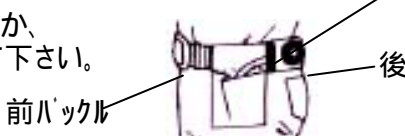
3.1 安全帯の胸締めベルトは腰骨の所に正しく、しっかりと締めて下さい。



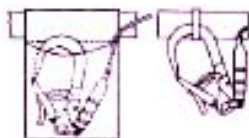
3.2 バックルにベルトを通す方法はバックルの裏側①から表へ通して②の孔に通して裏側へ出して下さい。ベルト端は樹脂製のベルト通しに通して下さい。



3.3 リール又はD環の位置は体の横側か、又は斜め後側になるように装着して下さい。



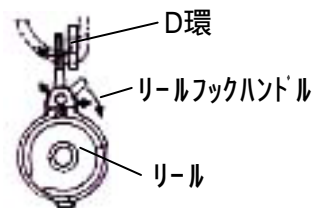
3.4 フックは収納袋か又はフックハンガーに正しく収納して下さい。



4. 平ロープとリールの使い方

4.1 平ロープはフックを持って必要な長さを出してねじらないように使用して下さい。

4.2 脱着式のリールを取付ける時は、向って右側(左側)のリールフックハンドルを一杯に押し下げ、下げた側よりD環を入れ、それを左側(右側)へひねる様にして取付ける。()内は取外す時。



5. フックの使い方

5.1 2ロックタイプ
2つの安全装置のハンドルを①②の順で握って下さい。外れ止め装置は開口します。



5.2 1ロックタイプ
樹脂製の安全装置のハンドル①
外れ止め装置②の順で握って下さい。



外れ止め装置は開口します。

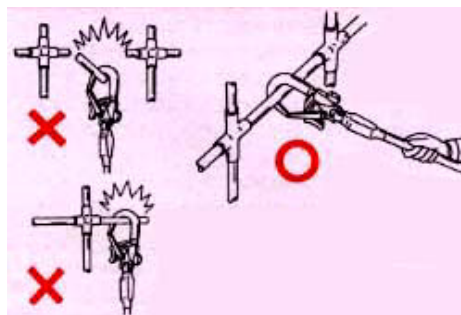
6. 使用上の注意事項

危険 絶対やめていただきたいこと

誤った使い方をすると墜落などのおそれがあります。


フックは強固なものにかける

構造物の弱いものにはかけない。
フックが抜けるおそれのある所にはかけない。
はずれて墜落する危険があります。



鋭い角に平ロープをかけないように

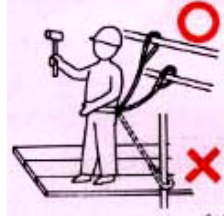
鋭い角に直接かけない。
墜落時鋭い角に触れるおそれのあるような所に絶対かけない。絶対やめて下さい。
墜落時平ロープが切断することがあり危険です。

 **警告** 特にやめていただきたいこと

誤った使い方をすると墜落などのおそれがあります。

フックは腰より高い所にかける

腰より低い所にかけない。
万一墜落した時落下長が長くなり
大きな衝撃荷重がかかり思わぬ
事故の原因になりますのでやめて下さい。



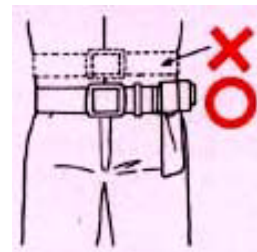
バックルに正しくベルトを通す

墜落後胴しめベルトがバックルから抜けて
事故発生の原因になります。



胴しめベルトは腰骨の所にしっかりと

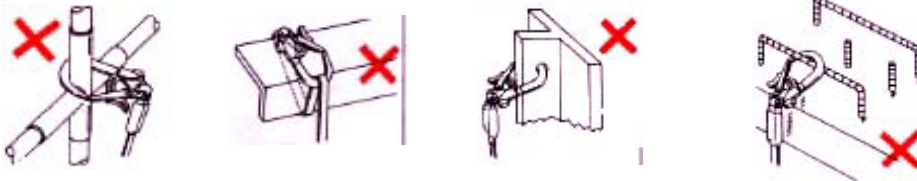
上の方にしめると墜落時内臓を圧迫する
おそれがあります。
下の方は足元に抜けて事故の原因に
なります。



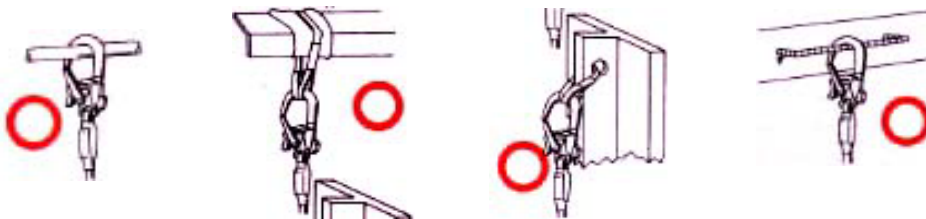
フックは正しくかける

万一の墜落時に誤った かけ方をするとフックが 曲がったり、外れ止め
装置が破損したりして フックがはずれて事故の原因になります。

誤ったかけ方

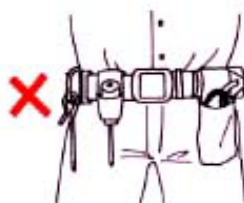


正しいかけ方

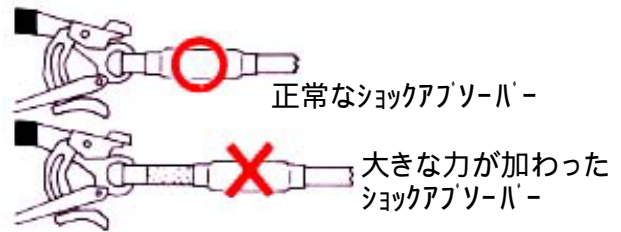


改造、分解しないで！

左右にD環をつけてU字つりの
安全帯等に改造しない。
法律で禁止されています。

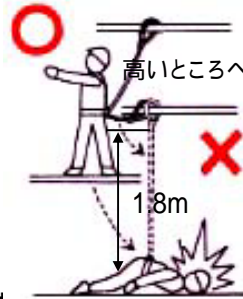


一度大きな力が加わったものは使わない
再度使うと万一の墜落時に大きな衝撃が加わり事故の原因になります。



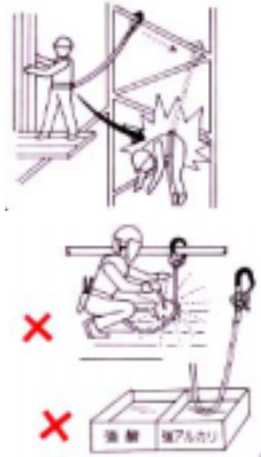
フックは高い所にかける

低い所にかけると万一の墜落時に床に当たり思わぬ事故になります。ショックアブソーバーが作動し平ロープ長が約 1.8m になります。



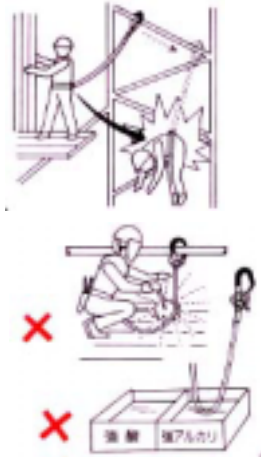
雨天の感電にご注意

平ロープが雨にぬれて水分を含むと導体になります。電線に触れない事。



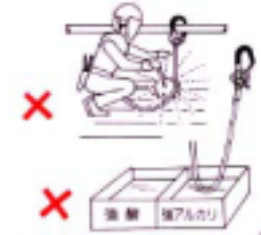
振子にならない、滑らない所にフックを

万一の墜落時、カベ、柱等に衝突して事故の原因になります。



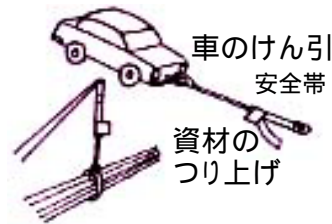
高熱、薬品などに注意

平ロープ、ベルト類が溶けて強度不足になり墜落するなどの事故につながります。



安全帯は他の用途に使わない

使用して万一の墜落時に強度不足をまねき思わぬ事故の原因になります。



注意 守っていただきたいこと

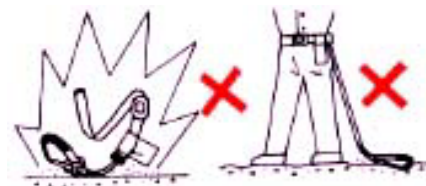
体重を安全帯にかけないで

法律で禁止されています。
この安全帯は万一の墜落の時人体をささえる目的に使用する安全帯です。
この場合はC・D・E種を使う事。



投げないで、路上を引きずらないで

砂等が付着し万一墜落した時外れ止め装置等が動きにくくなり事故の原因になります。



補修の時同一業者の部品をつかう

万一墜落時に必要強度が得られず墜落の原因になる場合があります。
弊社へご相談下さい。

7. 性能

項目	労働省安全帯の規格 KN(kgf)	社内試験結果 KN(kgf)
胴締めベルトの強さ	14.7(1500)以上	29.4(3000)
ロープの強さ	17.9(1830)以上	24.5(2500)
フックの強さ	11.3(1150)以上	14.7(1500)
リールと胴締めベルトの 連結部の強さ	11.3(1150)以上	14.7(1500)
バックル連結部の強さ	7.8(800)以上	8.8(900)
安全帯の衝撃吸収性及び強さ	8.8(900)以下 破断しないこと	4.4(450) 破断なし

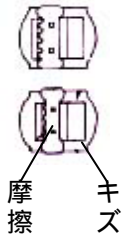
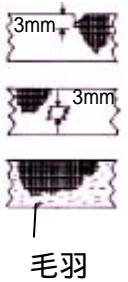

各部の強さは新品時の値(静荷重)です。

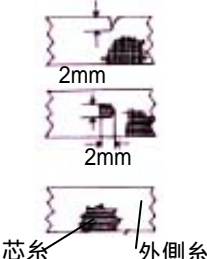
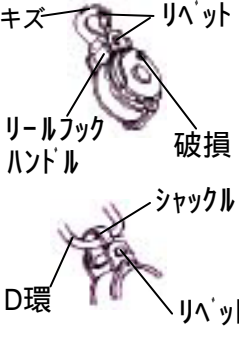


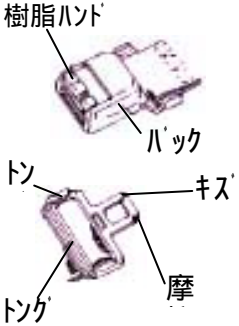

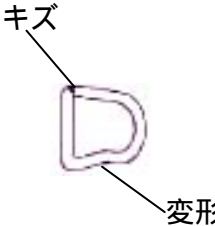
特にロープ、ベルト、縫糸、樹脂などのご使用の状況、手入れのしかた等により変わります。

特に摩耗し易い部分又は紫外線などの影響で経年と共に低下します。又、フック、バックル等も手入れの仕方により赤サビ等が発生しますと強さは低下しますので始業時の点検と日常の手入れを十分行って下さい。

8. 日常の点検と廃棄基準

始業点検(毎日1回)定期点検(月1回)必ず行って下さい。下表の1項目でも廃棄基準に達したものの、又はこれに類似するものは直ちに新品と取りかえて下さい。

点検箇所		廃棄基準と点検方法	
胴 締 め ベ ル ト	バックル		チャック部、裏プレート、本体等が変形してしまらないもの。 チャック部が摩耗してベルトをかまないもの。 1mm以上の深さのキズがあるもの。 リベットの頭が1/2以上摩耗したもの。 全体に赤サビが発生したもの。
	ベルト		耳部、又、巾の内側に3mm以上の切損、焼損、擦り切れのあるもの。 薬品、塗料等がついて著しく固くなったもの又は溶けているもの。 バックルチャック歯にそって著しく毛羽立っているもの。 端末金具が取れ糸がほつれたもの。 端末金具が曲がっているもの。
	縫糸		縫った目が1ヶ所以上切れたもの。
フ ッ ク		油切れ、又は変形して外れ止め装置が完全に開閉しないもの。 深さ1mm以上のキズのあるもの。 リベットの頭部が1/2以上摩耗したもの。 全体に赤サビが発生したもの。 バネが切損して外れ止め装置が完全に開閉しないもの。 安全装置カバー、樹脂モールド破損のもの。	

点検箇所	廃棄基準と点検方法	
平 ロ ー プ		<p>耳部及び巾の内側に2mm以上の切損、焼損があるもの。 外側の糸が2mm丸で切損し中の糸(金色糸)が見えるもの。</p> <p>著しく弓状に曲がったもの。 薬品ペンキ等で著しく硬くなったもの。 巻芯部の縫糸が摩耗切損したもの。</p>
リ ー ル		<p>平ロープが引出し、巻き込まないもの リールフックハンドルの開閉しないもの 又、スプリングがはずれているもの。 樹脂カバーが破損しバネ等が露出したもの 取付ビスが1本以上脱落しているもの フレーム金具が深さ1mm以上キズが発生したもの。 リベットの頭部が1/2以上摩耗したもの。</p>
ア シ ブ ョ ソ ク ー ク バ		<p>カバーが破れ内部の平ロープが露出しているもの。 大きな衝撃が加わり変形したもの。</p>
樹 脂 カ バ ー		<p>フックと平ロープ取付部の樹脂カバーが破れ平ロープが直接金具に接しているもの</p>
ワ ン タ バ ッ チ ク 式 ル		<p>トングを差し込んだ時「カチッ!」という音がしなくなったもの。 解離操作でトングが飛び出さないもの。 樹脂カバーが破損しロックしないもの。 トング先が著しく摩耗したもの。 樹脂ハンドルが解離後元に戻らないもの。 樹脂ハンドルがロックしないもの。 トングバーがなくなったもの。</p>
シ ヤ ッ ク ル		<p>深さ1mm以上のキズがあるもの。 全体に赤サビがあるもの。 リベットの頭部が1/3以上切損摩耗したもの。</p>
D 環		<p>著しく変形したもの。 深さ1mm以上のキズがあるもの。 全体に赤サビが発生したもの。</p>

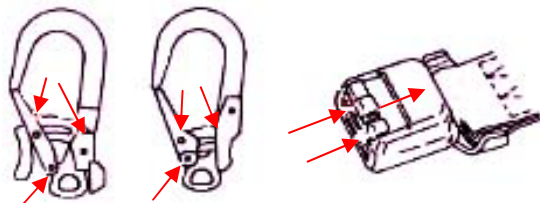
9. 保守、保管と交換のめやす

お求め頂いた安全帯の性能を常に正しく維持して安全に作業をして頂くために下記の様に日常の手入れと保管をして下さい。

日常の手入れの仕方と保管方法

1. 使用後は必ず安全帯の各部に砂、土、コンクリート、ゴミ、ペンキ油等が付着していないか確認して下さい。砂、土、ゴミ等はエアーを使って吹き飛ばして掃除して下さい、コンクリート等は水でよく洗って下さい。ペンキ油等は中性洗剤又はペンキウスメ液で歯ブラシにて洗浄して下さい。洗った後は布でよく拭き取って下さい。
2. 乾燥は日陰で自然乾燥して下さい。
3. 金具類(バックル・フック)は可動部に2、3滴マシン油を注油して動きを確認して下さい。注油部

(図は一例を示す)



4. 保管は下積にならないよう日陰の乾燥した場所で壁面等にかけて保管して下さい。

交換のめやす(耐用期限)

使い方によっては交換のめやすとして平ロープは2年、平ロープ以外のものは3年をめどにして下さい。ただし、耐用期間内でも8の点検基準及び類似するような不具合点を確認した場合は直ちに新品と取り替えて下さい。

使用開始の年月の記入について

バックルの取付部の近くのラベルに使用開始年月を必ず記入して下さい。